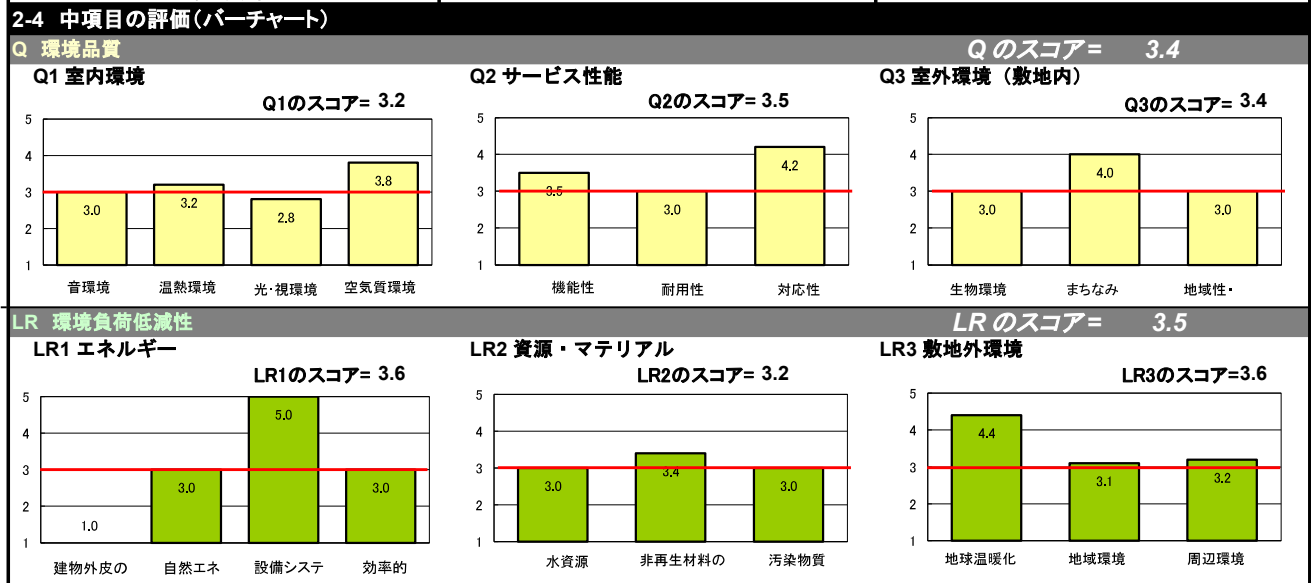
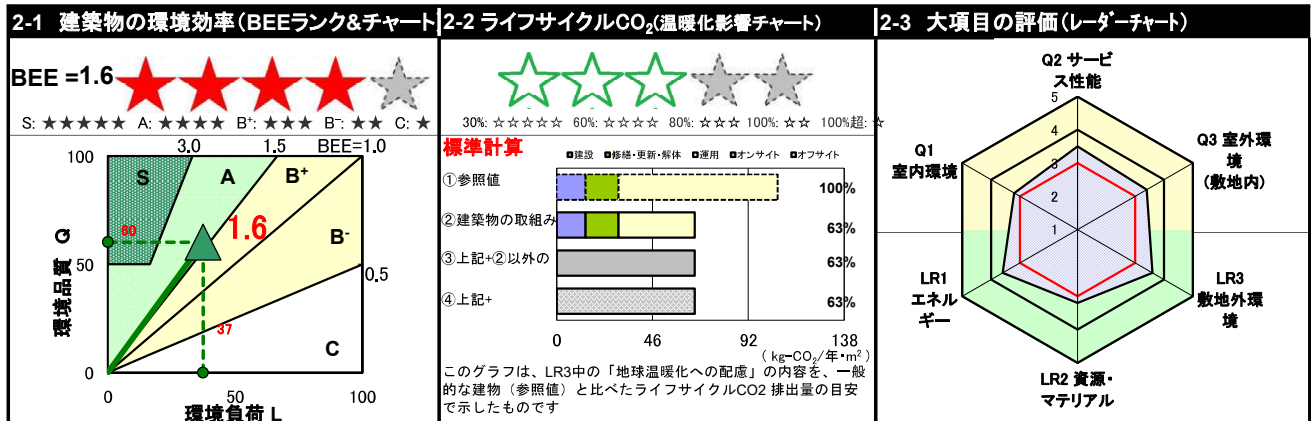


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DPL千葉レールゲート新築工	階数	地上4階
建設地	千葉県千葉市美浜区新港4番20、3	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域、新港経済	平均居住人員	620 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・学校・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年8月1日
敷地面積	48,539 m ²	作成者	株式会社浅沼組東京本店一級建築士事務所
建築面積	29,119 m ²	確認日	2025年8月1日
延床面積	113,390 m ²	確認者	株式会社浅沼組東京本店一級建築士事務所

外観/パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

3 設計上の配慮事項		
総合 敷地南側外周に新設される歩道計画を配慮して、車両の搬出入計画、植栽計画、街並みの形成を合わせた計画を行っている。		その他 敷地面積の10%を地上で緑化し、緑豊かな物流倉庫を計画している。
Q1 室内環境 空調設備にて室内環境を快適な空間に調整できるように設定している。また、仕上材にはF☆☆☆☆を使用することで、室内空気質を良好に保つように努めている。	Q2 サービス性能 事務室の天井高さを3,100mmとし、OAフロアを採用することで、柔軟なレイアウトを可能としており、執務に集中できるような空間作りに努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物周囲に中高木を植栽し、敷地南の車道側には生垣を配置することで、外部空間と緩衝材の役割を果たしている。
LR1 エネルギー 設備システム高効率化を図ることにより、環境への負荷を軽減している。	LR2 資源・マテリアル 節水型衛生機器を採用することにより、節水を考慮している。また、エコマークの材料を使用することで、環境配慮にも努めている。	LR3 敷地外環境 駐車場及び駐輪場を適切に設け、荷捌き等のスペースを確保することで、敷地外への違法駐車等がないように配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される